

「情報共有基盤システム NetCommons の活用に関する研究」
～情報活用能力を育む「授業づくり」における活用～

福島県教育センター 指導主事 永山 広克
福島県教育センター 主任実習講師 目黒 朋子

1 研究の趣旨

第6次福島県総合教育計画の各種施策による子どもたちの学力向上や進学や就職などの進路希望の実現に努めているが、文部科学省の全国学力・学習状況調査結果から、知識・技能のより確実な定着と、これらを活用して課題を解決する力を育成することが課題となっている。

また、情報通信技術の発展により、情報活用能力を高める教育を推進するとともに、高度情報化社会を主体的に生きていく能力を、身につけさせることが重要になっている。子どもたちの発達段階に応じて、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の活用に関する能力を身につけさせ、各教科等においてICTを活用した学習活動を推進していく必要がある。

これまで、導入を進めてきた学校Webサイトを学習活動に利用することで、子どもたちの基礎的・基本的な知識や技能の定着や、思考力・判断力・表現力を育む授業づくりに役立てていきたい。そのために、研究協力校での学校Webサイトを活用した学習活動や、授業づくりについて実践報告する。

2 研究の目的

- (1) 学校の教育目標実現と確かな学力を育む授業づくりにCMS (※₁) 及びLMS (※₂) を活用し、その可能性について、調査・研究する。
- (2) 被災県として、災害や緊急時の安全・安心のための最適な情報共有基盤システムのクラウド化の調査・研究と、県内の学校・教育機関等にNetCommonsによる学校Webサイトの導入を推進する。
※₁ CMS (Contents Management System)・・・Webサイトを管理・更新できるシステム。ページを作成するための専門知識を必要とせず、Webサイトのコンテンツ管理を実現する仕組み。
※₂ LMS (Learning Management System)・・・学習管理から教材作成、成績管理などのeラーニング運用に必要な機能を備えた管理システム。

3 研究の概要

- (1) 基礎的・基本的な「知識や技能」に加えて、「学ぶ意欲」や「学び方」、「思考力・判断力・表現力」などを含めた幅広い学力を育てるための学校Webサイトの利用方法を検証する。
- (2) 学校Webサイトの利用を活性化し、学校Webサイトに地域の方々や保護者等が参加したり、生徒自身が記事を投稿したりすることによる様々な情報発信手段・方法を検証する。
- (3) 学校WebサイトをLMSとして活用する研究をする。児童生徒の作品の発表など表現力の育成と自己評価や他者評価をとおして、自己を見直し、改善できる意欲と態度を育てる。また、子どもたちが互いに交流や表現、問題に取り組むことで、学習意欲の喚起や問題に対する解決力の育成、更に思考力・判断力・表現力を育むことができる場を作る。
- (4) FKS (ふくしま教育総合ネットワーク) や関係機関と連携しながら、県内共通の情報共有システムとして提案し、県内の学校や関係機関へ導入を進めている。

4 研究協力校活用実践

- (1) 東白川郡矢祭町立内川小学校・・・児童の情報活用能力の育成と言語活動の育成を目的に、児童自身が、本日の給食の感想を記入し、記事を発信している。
- (2) いわき市立勿来第三小学校・・・「学習の記録」というページでは、児童の作品発表の場として利用されている。表現活動の中で、鑑賞の能力を育む取組が行われている。
- (3) 新地町立尚英中学校・・・生徒会が中心となり新地町のイメージキャラクターの募集を行い、生徒からの作品を発信している。表現力を養い、外部の人々から評価されることで学習意欲も喚起した。
- (4) 南相馬市立原町第三中学校・・・校外学習の様子を研修先から、iPadを用いて記事を更新。
- (5) 福島県立田島高等学校・・・Webサイトの連携型中高一貫教育のページで、中学生からのQ&Aや高校生の進路相談の場として活用する予定である。
- (6) 福島県立石川養護学校・・・「児童生徒に対する視覚支援を活用した学び」をキーワードとして、タブレット端末活用の取組を進めている。学校Webサイトの学習に関わる実践については検討中である。
- (7) その他の活用 (長期研究員等)・・・情報モラル教育 (喜多方市立第二中学校)、高校国語科 (郡山高校)、すきま時間を利用した基礎学力の定着 (白河実業高校)、商業科目電子商取引 (高教研商業部会)